

東北に、よりそって。

東日本大震災 被災者支援活動 シャンティの取り組み



公益社団法人
シャンティ国際ボランティア会
私たちは向き合います。苦難の中にある人々と世界に。

つなげる、つながる、そして今を生きる

大震災当初、悲しみを抱きながら、一日々々を生きることはできて、この先どうすればよいか。「前向きに生きようと言われても、どっちが前なのかわからない」という苦悩の声を、移動図書館活動の場で聞きました。その頃と今はどれだけ、どのように変わってきているだろうか。復興に向かつてはいるが、解決してゆかなければならない問題は山積みしています。例えば、仮設住宅から恒久住宅への転出が進む中、とり残される不安など、仮設に残らざるをえない人たちの精神面や生活環境の悪化などが懸念されます。

こうした状況の中で、気仙沼事務所では、地元採用職員による支援団体立ち上げに向けた方向性を模索しています。岩手事務所においては図書館活動を各市町に引き継ぐ方向で検討しています。山元事務所では、南相馬での移動図書館活動を継続、新たに子ども支援、伝統文化支援等の取り組みに向けて動き出しています。

それぞれの地域の状況に応じて最も適切なあり方を模索しながら地域の人たちに寄り添って参ります。引き続き、皆様のご支援を宜しくお願い申し上げます。

公益社団法人 シャンティ国際ボランティア会 会長 若林恭英

ご挨拶	2
目次	3
岩手事務所	4
これまでの活動	4
活動地域のみなさんの声	6
プロジェクト実績	8
読み終わった本やTポイント、お買い物物でいまできる支援	9
山元事務所	10
和みの場としての移動図書館	10
気仙沼事務所	14
まちづくり支援	14
子ども支援	16
漁業支援	18
活動地域のみなさんの声	20
お買い物やお食事でもいまできる支援	22
シャンティ国際ボランティア会（シャンティ）とは？／	23
ロゴについて	24
東日本震災支援募金	24
募金のお願い	25
活動を支えるスタッフ	27
決算報告書	27

走れ
東北!

移動図書館プロジェクト

走れ東北!
移動図書館プロジェクト

これまでの活動

2011年6月～2015年3月

岩手事務所 三木真冨



完成が待ち遠しい災害公営住宅

岩手県沿岸部の復興状況

東日本大震災から4年が経過しました。被災地のニュースをテレビや新聞で見ることが少なくなったように思いますが、岩手県ではようやく復興事業が本格化してきました。山を削って宅地を造成する高台移転事業、浸水した土地に数メートル土を盛って市街地の機能を再生する区画整理事業等が目に見える形で進んでいます。いくつかの災害公営住宅も完成し、仮設団地から災害公営住宅への転出が行われています。

しかし、仮設団地から恒久住宅への転出が始まったとはいえ、岩手県の仮設団地の入居率は今も80%を超えています。多くの被災者が「仮設暮らし」を余儀なくされており、用地取得の問題、建設資材の高騰、入札不調などの影響により、住宅再建が遅れ、仮設団地での生活がさらに長期化することも考えられます。一方、仮設団地からの転居が進めば、取り残される不安など、仮設団地に残らざるを得ない人たちの精神面や生活環境の悪化が今後予想されます。



中心市街地の盛土工事。浸水した土地を数メートル高上げて再び人が住める街を作る。場所によって10メートル以上盛土工事を行う。



山を削って土砂を搬出するベルトコンベアー。トラックで土砂を搬出するよりも工期が短縮されるため、各自治体で導入されている。

岩手事務所の活動

岩手事務所は2011年6月に遠野市に事務所を開設し、図書館が大きな被害を受けた山田町、大槌町、大船渡市、陸前高田市の4市町で7月より仮設団地にお住いの方を中心に図書を通じた復興支援を行ってきました。現在は仮設団地への移動図書館活動、常設の陸前高田コミュニティ図書室の運営、仮設団地の集会所・談話室にいつでも本を借りられる「文庫」と呼ばれる本棚の設置を行っています。

岩手事務所の大きな特徴の一つはスタッフのほとんどが地

元出身者であることです。地元出身のスタッフが中心となり仮設団地に暮らす利用者だけではなく、地域の方々と協力しながら活動を進めています。

2014年には陸前高田コミュニティ図書室の利用者の会である「友の会」を立ち上げました。利用者でもあり、図書室を気に入ってくれている地域の方と一緒に良い図書室の運営について話し合っています。

同じく2014年4月より、山田町立図書館と共同で移動図書館を行うなど、地域の方々と共に活動を行っています。



仮設団地での移動図書館の様子



小学校での移動図書館



図書室友の会での話し合いの様子

活動地域のみなさんの声



貝山隆さん

陸前高田市滝の里工業団地
仮設団地自治会長

この仮設団地は、気仙町の人が多く、災害公営住宅や集団高台移転を待っている人たちです。高台移転するために、山を切り崩し、整地をしないといけないのですが、移転先の山はまだ、形を残しています。震災から4年が経とうとしているのに、目に見える復興は、まだありません。

4年の歳月が移動図書館で来てくれるスタッフと、気兼ねなく話せる関係にしてくれました。常連と何気ない日常の会話をし、お茶を飲みながら一緒にその場にいることが、楽しい時間となっています。これからも、そんな時間を大切にしていきたいと思います。



貝山隆さん（左から2人目）



熊谷芳正さん

移動図書館ドライバー

あの日は、陸前高田市広田町で被災、自宅は津波で2階ギリギリまで水につかり、あたりの風景に愕然としたものでした。

その後、8月初めに小友町のモビリア仮設団地に入居し、紹介で2012年12月から移動図書館車のドライバーとして活動しています。岩手事務所には地元スタッフも多く、仲良く笑い声も弾み楽しく活動しています。

岩手事務所の活動は、本の貸し出し以上に住民間の交流を大切にしているところが良いと思います。

私は、活動が続く限り安心安全なドライバードライバーとしてハンドルの握りたいと思っています。





山田町立図書館のみなさん

山田町では移動図書館活動を行っていないため、仮設団地にお住いの方々に本を届けてくれるシャンティさんの活動は大変ありがたいです。

2014年4月からシャンティさんと山田町立図書館が、一緒に移動図書館を運行することになりました。図書カードを統一して、どちらで借りて、どちらに返してもいいようになり、利用者様からも好評を得ています。

町内各所の仮設団地を巡回して、住民の方々とお茶のみの場を設けての移動図書館は、活動当初から目指していた「みんなの居場所」になりました。

震災から4年が過ぎようとする今、支援の数も減る中で、仮設団地に残っている方々を世の中から置去りにさせないという、シャンティさんの強い意志で活動が継続されて来たことに感謝します。



木村薫さん

一頁堂書店（大槌町）

被災地支援は「継続すること」がいかにかに難しいか、支援を受けている私たちは時間の経過とともに目の当たりになっています。その状況の中にあっても、シャンティさんが被災地支援活動を一貫して続けておられることにご購入いただいている本屋としてだけでなく、ひとりの町民として深く感謝しています。また、シャンティさんの存在、特に地元スタッフさんの優しいお人柄が、不安の中で手探りをし続けている私どもにとつての安心の一つとなっています。

全くの素人で始めた一頁堂書店は、昨年末、皆様に支えられながら4年目に入りました。被災地で本屋を続けることの厳しさを感じしながらも、本屋になってより強く知った「本の力」を信じ、お客様に本を手渡しすることを大切にしている本屋であり続けたいと思っています。そして、シャンティさんには、これからも「本の力」を被災地にひろめ続けていただきたいと心から願っています。

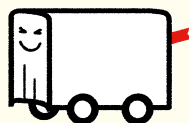


いわてを走る移動図書館プロジェクト実績

仮設団地総巡回数	1,619回	文庫設置個所	26カ所
総利用者数	28,777人	蔵書	約53,000冊
総貸出冊数	84,450冊		(2011年7月～2014年12月)

※総利用者数と総貸出冊数は、移動図書館、図書室、文庫を含めた実績

2011年に活動を開始して以来、たくさんのご声援・ご寄附を頂いて、活動を継続させていくことが出来ました。皆様からお預かりしたご寄附は、活動地での図書活動に使わせていただいております。一例として以下のように活用しています。



地元書店での本の購入



利用者の方に提供しているコーヒー



図書館車の維持費や燃料代

今後についての方針

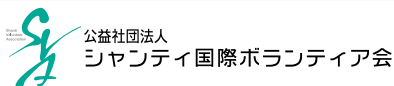
2015年に入り、仮設団地にお住いの利用者の方が住宅の再建もしくは災害公営住宅への転居を通じ、仮設団地から少しずつ引越しく、それぞれが自立に向かっていくと思われま。

仮設団地を出ていく方を見送り、また仮設団地からまだまだ出られない方に寄り添う1年になると思います。

仮設団地から恒久住宅へ、移行期に入ろうとしている中、今まで以上に地域の方々と連携しながら、被災者の方に図書を通じた支援をしていきたいと思えます。

復興にはまだまだ長い道のりが必要ですが、岩手事務所の活動が終了した後も、その土地に必要な図書の活動をどうしていくべきか。市町ごとに地元の方々や検討しています。

本・CD・DVD・ゲームを売って被災地の移動図書館を応援しよう！



BOOK-OFF Online

皆様のご不要になった本・CD・DVD・ゲームをブックオフオンラインにお売りいただき、その買取金額が移動図書館活動の図書購入費などに充てられます。

被災地の移動図書館では、時間の流れと共に、日々「求められている本」が変化しています。それにお応えできるように、皆様からお送りいただいた本などをそのまま活用するのではなく、ご寄附いただいた買取金額で「求められている本」を購入しています。

ブックオフ 移動図書館 検索

<http://goo.gl/3oAqR>



YAHOO! ネット募金

Yahoo! ネット募金なら、Tポイントを使って1ポイントからでも募金可能です。

T-POINT

YAHOO ネット募金 シャンティ 検索

<http://donation.yahoo.co.jp/detail/723005/>

走れ！移動図書館 本でよりそう復興支援

定価：本体**840円**+税



鎌倉 幸子 著 / ちくまプリマー新書

東日本大震災発生後、岩手事務所を立ち上げ、津波で被害を受けた陸前高田市、大船渡市、大槌町、山田町で「いわてを走る移動図書館プロジェクト」を立ち上げた当団体 鎌倉幸子の著書。

震災発生後なぜ移動図書館を始めたのか、活動を始めるために大切にしたい「4つの視点」、どのような本がどうして選ばれ読まれたのか、本を通じた支援の在り方を指し示しています。東北の方々の声や、声にまだできない気持ちもお伝えしています。どうぞご覧ください。

【目次】

- | | |
|------|-----------------------|
| 序章 | 東日本大震災のこと、自分にとっての本の存在 |
| 一章 | なぜ移動図書館なのか |
| 二章 | 読みたい本を読みたい人へ届けるために |
| 三章 | 本を読むこと |
| 四章 | 本のチカラを信じて |
| おわりに | 衣食住と本と |

和みの場としての移動図書館

これまでとこれから

山元事務所
古賀東彦走れ
東北!

移動図書館プロジェクト

●みなさんがホッと
できる場でありたい

シャントイ山元事務所が宮城県南東端に位置する山元町と福島県南相馬市において、移動図書館の運行を始めたのは2012年秋のこと。以来、多くの方々からお支え・応援をいただけてきました。ご寄附、車両購入や図書館車の塗り替え費用のご負担、利用者



利用者とはがはずむ地元スタッフ

グの提供、励ましの言葉や専門的なアドバイス、運行のお手伝いなど、さまざまな形で。発災から5年目となる今も、仮設団地で暮らす方々のもとに、定期的に移動図書館車で訪れることができるのは、このようなご支援のおかげです。

この間に、仮設団地内にはずいぶん空き部屋が増えました。3分の1近くが引越された団地もあります。ただ、「仮設暮らし」という異常な状態は今も続いています。穏やかな気持ちでいたいから日々の暮らしに慣れようとする、少しでもそこに楽しさを見つけようとする、それはその暮らしを気に入って認めたわけではないではありません。

そのような中で、私たちの移動図書館は、本を楽しむに

山元町での活動の特徴

山元事務所は事務所の立ち上げ時から、中古本販売などで知られるブックオフグループと強いつながりを築いてきました。資金援助とともに、月2回のペースで同グループの社員、パートスタッフが山元町を訪れ、ボランティアで運行を手伝ってくださったのです(写真上・中)。毎回4~6人、参加者はその都度変わり、2014年だけでものべ100人以上の参加がありました。同年、地元NPO「ささえ愛山元」のPC教室のお手伝いも始め、山元町の人々との触れ合いをさらに深めました(写真下)。参加後は、「山元町の今を戻って仲間に伝えたい」「仕事でくよくよなどしてられない」と、一方通行でない交流を感じさせる言葉が聞かれます。同じ人が何度も足を運ぶことは素晴らしいですが、異なる顔でも、気持ちをひとつにした組織なら支援をつないでいけることをそばにいて実感しました。



図書館車のまわりには話の輪



心をひとつに
運行へ出発



PCを前に共に悩めば
すぐ仲良しに

される方の場であるとともに、おしゃべりの場、交流の場としても定着してきたことを感じていきます。「うちの子は移動図書館が来るのを指折り数えて待っているんですよ」というおおかあさんがいらっしやいます。また、「移動図書館が来てくれることで気分転換になる。家だとふたりきりで、そう話すこともない。ここに来ればおいしいコーヒーが飲めて、他の人と話ができる」と感謝の言葉もいただきました。「移動図書館のおかげで、ここから出て行った人が遊びに戻って来られる」と聞けば、仮設団地でも暮らしている人と引っ越した人との交流の場になっていることを実感できます。

山元事務所は、地元で暮らすスタッフやドライバーを中

心に運行チームを組むことを大切にしています。顔が見えるスタッフだから話しやすい、近所の人には言えないことも話しやすいということがあるようです。各団地に滞在中のは1時間ほどです。限られた時間ではありますが、「あなたたちが来てくれるとホッとする」と言ってくださることに喜びを感じます。ここまで続けてこられてよかったです。



南相馬市での活動の特徴

2014年は移動図書館の訪問先を増やすことができました。これを実現できたのは、南相馬市での運行にほぼ毎回のようにボランティアで付き添ってくれた若い僧侶たちのおかげです（写真上・中）。中心となったのは、福島県新地町から南相馬市小高区までのお寺の方たち。曹洞宗福島県青年会相双支部のメンバーです。また、相双支部以外にも県下各支部からのお手伝い、曹洞宗復興支援室分室の後押しがあり、さらに県外からも応援をいただきました。南相馬市在住のスタッフとともに、顔の広い「地元和尚さん」が運行に同行してくださることで、利用者の方が安心して話ができる場をつくることができましたと思います。

また、プルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル生命からも、資金援助とともに、設営に使う机や椅子、社員の手作りによる積み木の提供を受け、運行へのボランティア参加も始まりました（写真下）。



和尚さんもお声掛けに回る



描いた絵を利用者に披露



子どもたちと触れ合う社員ボランティア

●2015年に始まる 大きな変化と不安

山元町では、2015年の夏ごろに、仮設住宅から災害公営住宅などへの引っ越しがピークを迎えると考えられます。新しい生活に踏み出す喜びの声とともに、仮設団地に

「んでしまうよ」という声を聞きます。仮設暮らしのストレスが限界にきている人たちが大勢いる。同時に、その先の暮らしへの不安を口にする人も少なくありません。

取り残されるような焦りを訴える声も多く聞きます。南相馬市でも、津波被害に遭われた方を中心に引っ越しが進み、さらに2016年春にはこれまで出されていた原発被

害による避難指示が解除される予定で、市内小高区への帰還も現実的な話となります。2015年は、いやおうなく生活が変化するとき。それが大きな「壁」となり、精神的圧迫を覚える方も増えるはずです。仮設団地では、「こんなところはずっといたら死

書による避難指示が解除される予定で、市内小高区への帰還も現実的な話となります。2015年は、いやおうなく生活が変化するとき。それが大きな「壁」となり、精神的圧迫を覚える方も増えるはずです。仮設団地では、「こんなところはずっといたら死

わってきています。「除染が進んだから帰れますよ」と言われても、怖い。原発がコントロールできていないから、今も何が漏れた、何が壊れたとニュースでやっているでしょう。皮膚感覚だから、この怖さは抑えられない。何もかも初めてのことで、専門家さえ間違え、国も何か隠しているんじゃないかって



荒涼とした景色にもいつか笑い声が響く日が

疑心暗鬼になってしまう。そんなところに帰れと言うんですか」という声もあります。いまみなができること、すべきことは何でしょう。実際にその場を訪れば、被災地と呼ばれることになった土地の今を知ることができません。できれば、一度ではなく継続して変化を知る。ただそれは、



天気が悪くても遊びに来てくださった

多くの方にとって難しいことだと思えます。山元事務所では、山元町と南相馬市での移動図書館の様子を運行ごとにフェイスブックにアップし続けています(アドレス・23ページ)。プライバシーへの配慮は欠かせず、そこで打ち明けられた苦しい胸の内をそのまま公表することはできません

が、幾枚かの写真と短い文章からでも、この地の現状や変化を想像していただけるのではないかとは思っています。

事実は見えづらいまま現実だけがころころ変わっていきます。一喜一憂させられ続けたら、どんな人でも疲れてしまいます。私たちは2015年もできうる限り、不安を抱えた方たちが少しでも穏やかな気持ちでいられるように、そして叶うなら少しでも前に進んで行かれるように、訪問を続け、お話を聞きしていきます。

シャンティは、福島県における新しい被災地支援事業の開始も検討しています。私たちに何ができるのか。問い続けるだけでなく、2015年はそれを実行していきます。

●後援・協力・アドバイスなど

山元町社会福祉協議会やまもと復興応援センター／宮城県図書館／福島県立図書館／南相馬市教育委員会／南相馬市社会福祉協議会／ブックオフコーポレーション／プルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル生命、ほか (順不同、敬称略)

●プロジェクト実績

仮設団地総巡回数	852回
総利用者数	9,016人
総貸出冊数	18,135冊

(2012年9月～2014年12月)

まちづくり支援

「復興まちづくり」のこれまで

気仙沼事務所 白鳥孝太



階上中学校の全校生徒によるまちづくりワークショップ

試行錯誤の2年

「つながる人の和」が気仙沼事務所の活動キーワードです。私たちが主体となって何かをするのではなく、地元の方々が協力し合える場や、きっかけづくりを私たちが担って「協働の機会」を増やすことを目標にしてきました。

宮城県気仙沼市で活動する私たちの周辺では、震災から2年を経た2013年の春ごろから、住民による「復興まちづくり」が動き始めました。当初は支援団体として、どのようにお手伝いしたら良いのか、模索と試行の繰り返しでした。

2014年に入って、ようやく「復興まちづくり」支援のかたちが見えてきました。具体的には、防災集団移転の事務局のお手伝いや建築家などの専門家をつなぐこと。まちづくり協議会では、話し合いを前向きに進めることや意見集約の支援。そして、被災地で活動する他の支援団体や

行政と連携を進める活動などです。

見えてきた成果の兆し

協議会の結成以来、支援してきた登米沢地区の防災集団移転（6世帯）では、2014年3月に土地の造成工事が完了しました。気仙沼市では、全部で38地区（966世帯）の防災集団移転が進行中ですが、登米沢地区は市内で最も早い竣工となりました。2015年3月時点で4世帯が自宅の再建を終えて、新しい「我が家」での暮らしを始めています。

階上地区まちづくり協議会では、2013年7月からアドバイザーとして参加し、ワークショップの実施を支援してきました。1年間かけて、話し合いと報告会を繰り返した結果が、2014年2月に「階上地区まちづくり計画」として完成し、地域住民の提言として気仙沼市長へ提出されました。

津波で流失した前浜地区（まえばし地区）の集会所「前浜マリンセンター」

の再建では、住民が建設作業に参加して、2013年9月に完成しました。以来、住民の憩いの場として、周辺地域や遠方から来た方々と住民の交流の場として愛用されています。2013年9月の完成からこれまでの500日間で276回の利用があり、地域の交流の場の復活を感じます。

シャンティ気仙沼事務所から職員を派遣して立ち上げを支援して来た「気仙沼まちづくり支援センター」は2013年7月に立ち上がりました。市内で活動する支援団体と専門家や行政をつなぐ、まちづくりの中間支援団体として、現在も「NPO連絡会」の事務局などを担い活動継続中です。

これからの役割
 残された時間で私達が出来る事は何だろうか？と自問してきました。
 これまで「つながる人の和」を目標に様々な復興まちづくり「まちおこし」を支援して来ましたが、ご家族を津波で亡くされた方々が集える場「つむぎの会」や、子ども達

の「生きる力」を育むための自然と地域体験「はまわらす」も継続中です。蔵内地区の漁師と女性達による漁村活性化の運動も被災地から生まれた大切な「まちおこしの芽」だと考えています。この「芽」が根を張って、継続していけるように、今しばらく、お手伝いして行きたいと考えています。



中学生から出た
数々のアイデア



完成した階上地区まちづくり計画 提言書



前浜マリンセンターで開催された
ゲートボール大会



小さなお茶会と
つるし飾りを楽しむ会



竣工した登米沢地区の防災集団移転用地

子ども支援

「あつまれ、浜わらす!」のこれから

気仙沼事務所 島田友美子



まち歩きの中で、地元の「達人」から津波が到達した場所のお話を聞く

生きる力

「あつまれ、浜わらす!」の「わらす」は「わらべ(童)」、東北の言葉で子どもを意味します。

「あつまれ、浜わらす!」は、子ども達が自然体験を通じて、自然の豊かさや怖さ、地元の文化や人々の暮らしの知恵を体験しながら、子ども達が本来持っている「生きる力」を引き出すことを目的に2013年に始まりました。

東北でも、震災前から人々と自然の関係は希薄になっていました。親子で浜辺や磯場、河原や森で遊ぶことも減っています。そして、大震災の津波により、海と子ども達の距離は、さらに遠のきました。

海や山での体験を通じて、子ども達が、大自然や地元の歴史の中で「生かされている」ことを感じてもらうために地域の方々の協力を頂きながら「あつまれ、浜わらす!」を継続しています。

2014年の「はまわらす」

2014年は1年間で7回のプログラムを行い、延べ118人が参加しました。

4月、まち歩き「海の宝と謎の地図」で「達人」(地元の大人)と一緒に地域の宝探しを行いながら釣り竿作りと海釣りを体験しました。

7月上旬、地元の伝統芸能「大谷大漁唄い込み」を体験する「大漁祝い隊!」を行いました。唄い込みの演技で使う船の櫂かいを手作りするために「達人」に、のこぎりやカンナ、電動ドライバーやキリなど大工道具の使い方の手解きを受けました。

7月下旬、手作り筏いかだで海へ出る「ぶかぶかいかだ体験」を行いました。子ども達は、1日目にデザインを考えてから、竹や漁業で使う浮きなど地元に在る材料を使って筏いかだを作りました。竹や浮きをつなぐ作業では、地元の漁師さん達



まち歩きの中に「ワカメの水揚げ」に遭遇！
飛び込み見学で、茹でたの「めかぶ」を試食



伝統芸能で使うかい櫂づくり。
「達人」から、大工の基本を教わりました



自分達で手作りしたいかだ筏でいざ海へ



貝殻に溶けたロウを流し込む

に結び方を伝授して頂きながら筏を真剣に作りました。2日目には、いよいよ海へ。子ども達の歓声が海に響きました。

9月、海水からの食塩作りを達人から教わりました。

11月、「シヤケはかせ」では鮭の漁業体験とスモークサーモン作りに挑戦しました。漁網から鮭を外したり、

鮭の生態を学びながら、魚を頂くありがたさに触れました。

12月、クリスマスの前に、海岸で拾った貝殻で作る「海キャンドル」(海をイメージしたろうそく)に親子で挑戦しました。みんなで海キャンドルに火を灯して「はまわらす」の1年を締めくくりました。

子ども支援の輪

気仙沼市内で活動中の他の支援団体との連携を大切にしています。子ども支援では、地元の子育て支援グループ、地域の親などが集まる意見交換の場に参加しています。

最も身近な存在が「気仙沼あそびばーの会」です。以前(特活)日本冒険遊び場つ

くり協会が立ち上げた「地域の遊び場」は、2014年から地元の方々による運営が始まっています。

今後は「はまわらす」の活動を地元メンバーで継続して行くためにNPOの設立を目指しています。これまでのご支援へ感謝申し上げますと共に、引き続きの応援をよろしくお願い申し上げます。

漁業支援

「漁業からはじまるまちづくり」

気仙沼事務所 東さやか



2年後の収穫を目指して稚目を選別する様子

新たな価値観

震災後、避難所で出会った漁師たちが協働グループ「蔵内之芽組」(以下、「芽組」)を結成。たくさんさんのボランティアに支えられながら漁業を再開してもうすぐ5年目を迎えます。「俺たちが夢に近づくには、震災前と同じではいけない」と、「芽組」は新たな漁業のカタチを話してくれました。彼らの夢は、後世に漁業を伝えていくこと。そのためには、漁師が互いに助け合うこと、そして人と人とのつながりを大切にするのだと、震災から学んだのです。

震災前まで漁師たちは、一般的に個々で漁業を営み、忙しさを家族との時間もほとんどなく、「ウザネ(＝苦勞)」しか残らない、お金を稼ぐためだけの仕事でしかありませんでした。しかし、「芽組」は震災後、全国から来たいろいろな人たちとの関わりができて、自分たちの収穫したワカメを「おいしい」と言ってくれる人たちの顔を見て、今までにない喜びを感じたと言います。

ます。その思いが漁師としての生きがいとなり、昨年はワカメに続いて2012年に種付けをしたホヤとホタテを初めて収穫することができました。こうして「芽組」は、今までになかった漁業という「ものづくり」の嬉しさを感じました。しかしこの職業には、また災害が起こって被害に遭うかもしれないというリスクからは逃げられません。2011年大津波の被害を受け、それでも「芽組」が漁業を続ける理由は、津波ですべてを失ったからこそ気が付いた「これは俺たちにしかできないんだ！」という漁師のプライドでした。

震災後、ほとんどの漁師が海を離れてしまつた中で、シャンティは「芽組」と共に、地域の文化である漁業を継続させるため日々挑戦しています。この地域に漁師という選択があることで、戻ってくる人や新たに入ってくる人もいます。そうして人が集まれば地域全体が活性化する、これが復興であり「まちづくり」なのだと言っています。

海の窓口くみんなのお母さん

いつも明るい声でお客さんを迎える蔵内の直売所兼お食事処「海の駅よりみち」（以下「よりみち」）のお母さんたち。2014年10月でオープンから1年が経ち、「よりみち」では新しいイベントを開催して、老若男女が集まり漁港に活気を運んでいます。

昨年は、地域の人たちも待ちわびていた震災後初めて味わうホヤやホタテ。ホヤの鮮やかなオレンジ色、大きく育ったホタテが華やかに店内に並びたくさんの人で賑わいました。お母さんたちは、地域の人々はもちろん、ボランティア、県外から東北の応援にきている警察官や工事現場の方々にあたたかく且つ愉快に迎え、

蔵内の海の窓口として訪れる人々を元気にしています。昨年6月には、「ホヤホヤバーベキューパーティー」を行い、たくさんの若者たちが浜焼きを楽しみ、新鮮な海の恵みに触れました。さらに昨年10月、「こいわかめ」がメニュー化されている株式会社横浜ビール「驛の食卓」で、「愛の収穫祭」（お母さんたちを応援します） わかめで結ぶ復興支援」

（株式会社大川印刷主催）が開催され、地域を越えてたくさんの人に「こいわかめ」の魅力を味わっていただきました。シャンティはこれからも、人々が集い、人々がつながり、喜びを分かち合うコミュニケーションを築いていく「よりみち」のお母さんたちを応援します。



震災後初、2年越しのホヤを収穫するメンバーたち



浜辺の婚活イベント「ホヤホヤバーベキューパーティー」



ホヤのつかみ獲り大会に参加する地域住民「ホヤ祭り」

活動地域のみなさんの声

子ども支援

「あつまれ、浜わらす！」の参加者ご家族

ふじさき 藤崎さん ご家族

父 瑛太君 (3歳)

母 鮎子さん

妹 奏多君 (8歳)

弟 白向君 (7歳)



みんなで「いかだ」を作ったのが、一番楽しかったよ！
最初に海に入った時はちよっと怖かったけど、今は平気。
今度の夏のいかだづくりも、きつと参加するよ！

震災直後は「海は怖い」と言っていた長男の奏多が、昨年「浜わらす」へ参加してからは、夏は毎日のように、三兄弟が揃って、元気に海辺で遊んでいます。

やなぎだ 柳田さん ご家族

父 誠二郎さん

母 理恵さん

息子 遼君 (13歳)

ひかるちゃん (10歳)



子ども達には「危ないからダメ！」
と言わずに、挑戦させてあげたい。
自然の中で失敗から学びながら、
育ってほしい。

スタッフの皆さんが、水難事故訓練や緊急時の避難計画などを準備されているので、安心して子どもを託せます。

震災の年に生まれたサケたちが帰って来られるのか、心配だったけど、獲れたのでうれしかった！

学年もバラバラのメンバーで、協力し合いながら筏を作ったのが楽しかったよ！

漁業支援

「蔵内之芽組」
「海の駅よりみち」のみなさん

この先の漁業のあり方を「芽組」は見据えています。そんなメンバー達と一緒に、海の魅力を伝えて行きたい！



蔵内之芽組
西之園 一成さん

蔵内之芽組
及川 寛宏さん

海の駅よりみち
三浦 清子さん

お世話になったみなさんを新鮮な海の幸でお迎えしたい！

震災後、お金ではない財産を得ました。それは、全国で応援してくれる仲間が増えたことです。これからは、若い世代が参加しやすい漁業をつくり、後世へ伝えて行きます！

被災から4年、これまで、一緒に歩んでもらったことに感謝しています。2015年を「決断の年」に、そして、被災地から「新しいもの」を創り出して行きたい！



会長
辻 啓一さん

事務局長
三浦 清和さん

これまで、全国の多くの方々に応援して頂きました。「恩返し」の意味もこめて、気仙沼の復興の一端を担えるように、これからも頑張って行きます！

まちづくり支援

階上地区まちづくり協議会
のみなさん

濃い味、濃い香り 気仙沼蔵内産 こいわかめ

540円(税込)+送料



三陸地方 気仙沼市 蔵内漁場は、起伏に富んだりアス式海岸の独特な地形と、寒流と暖流がぶつかる豊かな海にめぐまれた、宮城県でも有数の好漁場です。

この漁場で育ったわかめは、荒波に揉まれ、豊富な栄養分を吸収するため、しっかりとした肉厚の歯ごたえと豊かな味わいのある味の濃いわかめに育ちます。

東日本大震災の後、一艘だけ残った船のもと、わかめ業の再開を決意した漁師「蔵内之芽組」が作り上げた、本場のわかめを是非一度、ご賞味ください。

シャンティ こいわかめ

検索

<http://sva.or.jp/kesenuma/shop/wakame.html>

メニュー取入れ店

横浜ビール ^{うまや} 驛の食卓

横浜市中区住吉町 6-68-1
TEL 045-641-9901

遊酔食市場 勢 鴨居店[※]

横浜市都筑区池辺町 4328
TEL 050-5798-4801

※新子安店、ハマ横丁店でもメニューに取入れています。

あんでねっと 復興のアクリルたわし

500円(税込)+送料

「あんでねっと」は、編み物をあんでネットワークを広げようという意味です。被災地域のお母さんたちが仮設団地の集会所に集まり、手しごとを通して交流の場とコミュニティづくりに取り組んでいます。

活動地の宮城県や岩手県では、地元の特産品である海の生き物などをモチーフに、アクリルたわしを手作りしています。アクリルたわしは、洗剤を使わなくても洗えるエコたわしで地球にやさしい商品です。ぜひお試しください。

売上は「あんでねっと」の現場運営費（制作者の手間賃とお母さん方の活動費）に充てています。

1つ500円と決して安価ではありませんが、応援、ご協力いただけましたら幸いです。



シャンティ あんでねっと

検索

<http://sva.or.jp/kesenuma/shop/tawashi.html>

■ シャンティ国際ボランティア会 (シャンティ) とは？

シャンティは 1981 年に設立された国際協力 NGO です。

現在、東京事務所のほか、タイ、カンボジア、ラオス、ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ、アフガニスタン、ミャンマーに海外事務所を置いています。2014 年も 5 万冊の絵本（累計 95 万冊）を海外の子どもたちへ届け、14 棟の小学校舎（累計 344 棟）を建設しました。また、阪神・淡路大震災以降、国内外 20 を超える災害救援を行い、東日本大震災では、宮城県気仙沼市と岩手県釜石市、宮城県亘理郡山元町に現地事務所を開設して、長期的な支援活動を行っています。

■ ログについて

「つながる人の和 復興プロジェクト気仙沼」

人と人がつながり、人というピースがパズルのようにつながり、また新たに出会っていくことで、共に復興をめざしていくイメージです。それぞれの色は、青は気仙沼の海、緑は自然、赤は復興への情熱や人への思いやり、黄色は、希望を表しています。



HP <http://sva.or.jp/kesenuma/>
facebook <http://www.facebook.com/SVA.Kesenuma>
twitter http://twitter.com/sva_kesenuma

「走れ東北！移動図書館プロジェクト」

本を読むといろんな顔になります。わくわくしたり、ちょっとびっくりしたり、ほっとしたり、そしてやっぱりにっこり笑顔！いろんな顔に会いたくて、本を積んだ仲間たちが今日も走ります。そんな思いがこもったロゴマークです。



移動図書館プロジェクト

HP <http://sva.or.jp/tohoku/>
facebook (いわて) <http://www.facebook.com/SVA.Mobile.Library.for.Iwate>
(みやぎ) <http://www.facebook.com/miyagiwohashiru>
(ふくしま) <http://www.facebook.com/fukushimawohashiru>
twitter http://twitter.com/mobile_library

東日本大震災支援募金 決算報告書

(2014年1月1日～12月31日)

【収益】

項目	金額
指定正味財産からの受取寄付金振替額	78,426,822
指定正味財産からの受取補助金振替額	44,911,052
雑収益	151,450
収益合計	123,489,324

* 東日本大震災支援募金はすべて一旦、指定正味財産の受取寄付金 / 受取補助金として計上した後、費用に応じて収益に振替えています。

【費用】

項目	金額
復興支援費（気仙沼事業）	24,513,052
復興支援費（岩手事業）	43,939,284
復興支援費（山元事業）	30,301,281
共通費用	24,584,257
費用合計	123,337,874

【2014年度寄付金・補助金】

項目	金額
東日本大震災・無指定募金	15,621,435
気仙沼事業指定募金	447,654
岩手事業指定募金	1,177,415
山元事業指定募金	17,346,431
一般財団法人 地域創造基金みやぎからの補助金（気仙沼）	2,428,000
岩手県教育委員会からの補助金（岩手）	4,906,200
合計	41,927,135

【東日本大震災支援寄付金預金残高】 164,103,041

東日本大震災被災者支援活動への皆さまのご支援・ご協力をお願い致します。

払 込 取 扱 票

通常払込料金
加 入 者 負 担

02 東京

口座記号				口座番号 (右詰めで記入)				金額		千 百 十 万 千 百 十 円								
0	0	1	7	0	8	3	9	7	9	9	4							
加 入 者 名								金額	料 金			備 考						
SVA 緊急救援募金									/									
※[納]																		

各欄の※印欄は、ご依頼人様においてご記入ください。

通信 欄

〒 _____)

※ おなじみ (郵便番号)

おなまえ

ご依頼人 _____ 様

(ご連絡先電話番号) _____)

日 附 印

裏面の注意事項をお読みください。(ゆうちょ銀行)
これより下部には何も記入しないでください。

振替払込請求書兼受領証

口座記号番号	※	0	0	1	7	0	8	通常払込 料金加入 者 負 担
	※	3	9	7	9	9	4	
加 入 者 名	SVA 緊急救援募金							千 百 十 万 千 百 十 円
金額	※							
ご依頼人	おなまえ							日 附 印
料 金	/							
備 考								

記載事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押ししてください。
切り取らないでお出しく下さい。

この受領証は、大切に保管してください。

- 寄付金について、税の優遇措置が受けられます。所得税、住民税、法人税及び相続税の税控除が認められています。

(ご注意)

- ・この用紙は、機械で処理しますので、口座記号番号及び金額を記入する際は、枠内にはっきりとご記入ください。また、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。
- ・この用紙は、ゆうちょ銀行又は郵便局の払込機能付 ATM でもご利用いただけます。
- ・この払込書をゆうちょ銀行又は郵便局の渉外員にお預けになるときは、引換に預り証等を必ずお受け取りください。
- ・ご依頼人様からご提出いただきました払込書に記載されたおとところ、おなまえ等は、加入者様へ通知されます。
- ・この受領証は、払込みの証拠となるものですから大切に保管してください。

収入印紙

3万円以上
貼付

印

この場所には、何も記載しないでください。

活動を支えるスタッフ

シャンティは気仙沼、釜石、山元の3カ所に現地事務所を設置して、地元採用のスタッフを中心に活動しています。

気仙沼事務所



左より 畠山友美子、東さやか、白鳥孝太（事務所統括責任者）、笠原一誠

山元事務所



左より 古賀東彦（所長 岩手事務所と兼任）、大谷弘通、金沢幸枝、太田和代

岩手事務所



左より 三木真芽（所長代行）、津田千亜季、畠山寿子、吉田晃子、千葉りか、佐々木恵美、黒澤智美、村中一欽、古賀東彦（所長、山元事務所と兼任）



移動図書館ドライバー
左より 今村貞行、岩崎敏、齋藤敬明

募金のお願い

被災地の復興は中長期的な活動となります。引き続きのご支援をお願いいたします。

●郵便振替での募金

郵便振替 00170-8-397994
加入者名 SVA 緊急救援募金

※税制優遇について

この募金は税制上の優遇も受けられます。送られてきた募金の領収書を保存しておいてください。他の控除と同様に、確定申告の際に申請することになります。

●クレジットカードでの募金

<http://sva.or.jp/donate-t/>

この報告書は違法伐採がされていない、適切に管理された森林から産出された木材チップを原料にしたFSC® 森林認証紙、有害なVOC（揮発性有機化合物）を発生させるものとなる石油系溶剤が0%のノンVOCインキなど、印刷資材と製造工程が環境に配慮されているグリーンプリンティング認定工場で印刷しています。また、読みやすさに配慮した書体が使用されています。



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。





公益社団法人
シヤンティ国際ボランティア会
私たちは向き合います。苦難の中にいる人々と世界に。

〒160-0015 東京都新宿区大京町 31 慈母会館 2・3 階
TEL 03-5360-1233 FAX 03-5360-1220
HP <http://www.sva.or.jp/> E-Mail eru@sva.or.jp